

# 情報・システム研究機構(調査分析)

共同実施機関: 人間文化研究機構

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

実施期間: R1年~R2年

## 【実施体制】

・大学共同利用機関法人2機構の強み(人文系・理工系)を活かし、調査分析を効率的に行うため、「調査研究運営委員会(運営委員会)」と「調査分析タスクフォース(TF)」を新たに設置し、両機構の男女共同参画委員会とも必要に応じて連携する形とする。

【調査研究運営委員会】外部有識者を加えた運営委員会を新たに設置する。2機構より担当理事を始め、本部及び研究所等から、大量データの収集・解析・公開のノウハウを持つ者、社会調査の実施に知見を持つ者や、ジェンダー平等の推進に豊かな見識があり、本取組に対し特にコミットする者で構成し、TF代表者を含めた10名規模で編成する。

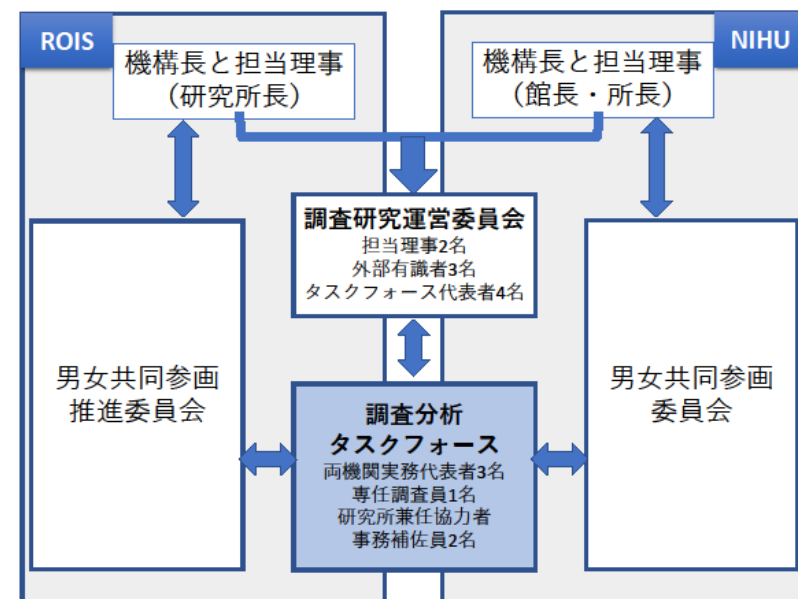
本運営委員会の役割は、①研究計画に関する方針の立案、②推進の助言と点検評価を行うこと、③調査研究の進捗状況についてTFから四半期ごとの報告を受け、最終的な到達目標に対する進捗の妥当性を点検し、長期的な視点からTFに対し適切な助言を行うこと、が主となる。

【タスクフォース(TF)】調査分析活動の中心となり実務に携わる。TFの構成は、両機構の研究者・URA、本事業の予算で雇用する専任調査員1名、事務員2名を加えた布陣で、必要な文献調査や海外調査等の実務、分析研究に当たる。

## 【特長】

- 2017年東京開催のジェンダーサミット10から得られた海外のジェンダー平等推進に関する知見や、両機構が有する人的ネットワークを最大限に活用して、海外の好事例のさらなる収集と好事例の効果分析に取り組む。
- 英国の表彰制度「アテナ・スワン」の制度設計に学び、さらに米国・カナダをはじめ同表彰制度の導入を検討する国々の調査を行い、教育・研究機関の自主的な意識改革を促す各国政府の政策・制度設計を比較分析する。
- 海外の制度設計の分析結果に基づき、日本で機能しうる評価制度の構築を目指す。

## 【体制の概要】



## 【取組概要】

1. 実施体制の確立
  - ・調査研究運営委員会の設置
  - ・調査分析タスクフォースの設置
2. 複数国における、政府や予算配分機関による施策の調査・分析
  - ・調査対象となる政府・評価機関の選定等
  - ・調査対象の機関との交渉による訪問時期の選定と訪問調査の実施
3. 海外の大学・研究機関等における女性研究者の活躍促進に向けた取組の調査・分析
  - ・調査対象となる海外の大学・研究機関等の選定
  - ・調査対象の機関との交渉による訪問時期の選定と訪問調査の実施
4. 取組の普及・情報発信
  - ・キックオフミーティング
  - ・中間報告会（2020年度開催準備）
  - ・全国ダイバーシティネットワークとの協同

## 【広報関係】

- ・2014年度～2016年度 女性研究者研究活動支援事業の採択と実施(情シス、女性研究者支援室) → 女性研究者支援の実施ノウハウの蓄積
- ・2016年10月 英国・アテナスワンを男女共同参画学協会連絡会シンポジウムで日本に初めて紹介(情シス、女性研究者支援室コーディネーター)
- ・2017年2月 女性研究者研究活動支援事業の一環として、ジェンダーサミット主催メンバーの研究者らを招聘、セミナーを4機構関係者で共有  
→海外のジェンダー平等の最先端を学ぶとともに、英国の表彰制度普及の歴史的経緯を理解する契機ともなる
- ・2017年5月 ジェンダーサミット10(東京)の分科会4「ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示」の企画・開催支援(情シス、URA)
- ・2017年11月 4機構連携で初の試みとなる男女共同参画シンポジウムの開催(情シス男女共同参画推進室が主導)  
→以降、毎年開催となり、機構間の情報共有の場として活用
- ・2018年11月 「評価指標の統合リスト」をHP上で公開 → ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの「調査分析」提案の重要な核
- ・2019年2月 男女共同参画のアクションプランを策定しHP上で公開(情シス、男女共同参画推進委員会) →評価指標の実例の蓄積

## 【お問合せ】

機関名: 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
所在地: 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル2F  
連絡先: 男女共同参画推進室 [danjo-staff@rois.ac.jp](mailto:danjo-staff@rois.ac.jp)  
HP: <http://danjo.rois.ac.jp/>